

昭島市 あきしま・あんぜん 共助マップ

～「いつか」の防災より、「いつも」の安全。
みんなの気づきを、街の地図に～

発表者：○○（あなたの活動名やチーム名）

清らかな地下水
コミュニティの絆と安全

守りたいのに、届かない情報

私たちが直面している、3つの「情報の壁」



PROBLEM 01

情報の分散

行政サイト、気象庁、ハザードマップ…。必要な情報が **あちこちに点在** しており、緊急時にバラバラで見るのが大変です。



PROBLEM 02

言葉の難しさ

「浸水想定区域」「キキクル」など、**専門用語が多く**、直感的に理解しにくいのが現状です。



PROBLEM 03

日常との乖離

広域地図では「私の通勤路」や「子供の通学路」にある **具体的な危険** が見えてきません。

日常の「ヒヤリ」を、明日の安心に

2つの視点を重ね合わせ、世界に一つだけの「生きた地図」を作る

「この角は危ない」



「いつも」の視点

♥ 生活知見 (ソフト)



散歩や通勤・通学中に気づく、リアルな危険箇所や地域の変化。

- 倒れそうな塀
- 水はけの悪い道
- 街灯のない夜道



生きた地図

日常の発見と、科学的根拠が
ひとつになった、
みんなの「共助マップ」

迷わない

わかりやすい

実用的

「浸水想定 3.0m」



「もしも」の視点

≡ データ (ハード)



行政、専門機関が提供する、科学的根拠に基づいた災害予測。

- ハザードマップ
- 断層帯の位置情報
- 避難所データ

私たちの街、昭島の「本当のリスク」

専門データを生活の言葉へ

リスク要因

出典（データ元）

私たちの「翻訳」（生活への影響）



多摩川の氾濫

東京都・気象庁

「氾濫時、あのガード下は**3メートル**沈む」



立川断層帯

東京都・気象庁

「揺れたとき、あの古い塀は**避難の邪魔**になる」



100% 地下水

昭島市防災計画

「停電しても、あそこの井戸は**生きている**」



「あきしま・あんぜん共助マップ」3つのアクション

市民の「気づき」から、実際の「行動」へつなげるサイクル

ACTION 01



マッピング

スマホで撮影した街の「ヒヤリハット」や気づきを、その場でマップに投稿。

📷 日常の記録

ACTION 02



編集・翻訳

専門的な防災情報を、誰でも直感的にわかる「生活者の言葉」に作り変える。

✍️ 情報の加工

ACTION 03



探検

実際に街を歩いて、投稿された危険箇所や避難ルートをみんなで再確認。

👥 現場確認

誰も置き去りにしない、情報のバリアフリー

すべての人が「安心」にアクセスできる街へ



知見がない人へ

引っ越してきたばかりの人でも、スマホ一つで地域の避難ルートや危険箇所が直感的にわかります。

✔ 誰でもカンタンに



近所同士のつながり

マップ作りを通じて、「あのお宅はサポートが必要だね」という、顔の見える会話が生まれます。

♥ 共助のきっかけ



行政との連携

市民が集めたリアルな「現場の声」を、将来のインフラ整備や防災計画の改善に役立てます。

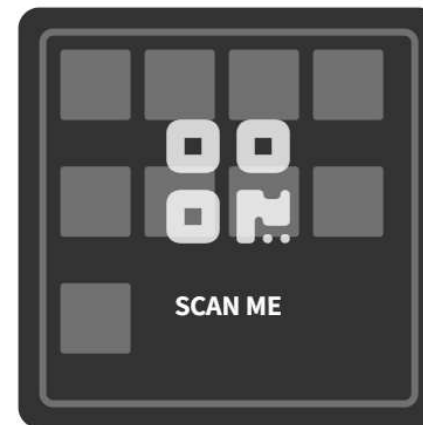
📣 未来の街づくりへ

一緒に、昭島の 安心を育てませんか？

あなたの「いつもの散歩道」での些細な気づきが、
いざという時、**誰かの命を救う情報**になります。
私たちと一緒に、安心できる街の地図を作りましょう。

✔ 特別な知識は不要

📱 スマホひとつで参加OK



活動に参加する

SNSで最新情報をチェック！

📷 @akishima_map_pj